

平成25年度学校評価

A:3.3以上 B:2.5以上3.3未満 C:2.5未満

重点項目	学年・委員会	評価項目・具体的取り組み	NO	評価基準				評価	取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価 自己評価の適切さ	
				4	3	2	1				
学力の向上による進路保障(①授業力の向上②生徒の学力の向上③生徒の自己実現に向けた進路支援)	1学年	基礎基本的事項の習得を図り、個々の進路希望に対応できる学力の養成に努める。	1	個々の学力・適性を把握をした上で十分な学習指導ができて満足な効果があった。	個々の学力・適性を把握をした上で十分な学習指導ができたが効果については、更に工夫を要する余地がある。	個々の学力・適性の把握はできて学習指導を更にする必要があった	個々の学力・適性の把握が不十分で学習指導も更にする必要があった	2.9	B	生徒個々の学力に応じて指導できた。今後、課題や補習の内容も含めて一層の工夫に努めたい。	・教科ごとのシラバスがあれば、進路実績などの学年差が出にくいと思うので、ぜひ検討してほしい。 ・読書の必要性については、とても効果的であると思うので、今後もぜひ続けて、読書習慣を確立してほしい。 ・情報教育の有効化について、コンピュータの活用など、さらなる情報教育の推進を行ってほしい。
		教科学習・進路学習やLHRIにおける指導により進路を思考する態度の育成を図る。	2	個々の生徒に応じた的確な進路情報を提供でき、自らの進路を常に意識することができた。	個々の生徒に応じた進路情報を提供でき、自己の進路を自主的に考えることができた。	一般的な進路情報を提供し、自己の進路を考える機会を与えることができた。	個々の生徒に応じた進路情報を提供できず、また生徒も進路意識をまったく持っていない。	3.0	B	進路探求に十分な時間をとることができなかったが、様々な情報を提供することで進路選択を自主的に考えることができた。	
	2学年	進路実現に向けて、生活と学習の両面の基本習慣となる力を身につけさせる。そのために自ら学び考え判断する力を育む。	3	個々の学力・適性を十分把握をした上で綿密な学習指導・進路指導ができて満足な効果があった。	個々の学力・適正を把握した上で、十分な学習指導・進路指導ができ、おおむね効果があった。	個々の学力・適正の把握はできたが、学習指導・進路指導においては、あまり効果がなかった。	個々の学力・適正の把握が不十分で、しかも学習指導・進路指導にもあまり効果はなかった。	3.0	B	昨年以上に生徒の学力・適正の把握は出来た。今後は今以上に教科間等の横の連携を密にし、個々の生徒に対して細やかな指導をする必要がある。	
		個々の生徒の学力と進路希望の把握に努め、進路実現に相応しい学習計画の指導と受験指導を行う。教科担当と担任・学年団のコミュニケーションを密にし、情報を共有しながら集団で進路指導を行う。	4	個々の学力・適性を把握をした上で十分な学習指導ができて満足な効果があった。	個々の学力・適正を把握した上で、十分な学習指導・受験指導ができ、おおむね効果があった。	個々の学力・適正の把握はできたが、学習指導・受験指導においては、あまり効果がなかった。	個々の学力・適正の把握が不十分で、しかも学習指導・受験指導にもあまり効果はなかった。	3.1	B	生徒の学力に適切した教材選択により、落ち着いた学習状況が一年間見られた。上位層に対する指導は、きめ細かさの面で余地がある。	
	教務	研究授業を行い、批評しあうことで、教科指導力の向上を図る。	5	各教科で学期に1回研究授業が行えた。	各教科で年間に1回研究授業が行えた。	一部の教科で研究授業を実施できなかった。	研究授業を実施することができなかった。	2.7	B	学力向上プロジェクトと連携し、研究授業・公開授業を実施した。2月に実施したが、来年度以降の実施時期について検討したい。	
		生徒の学力を向上させるために、常に教材研究や研修に努め、授業改善を試みる。	6	教材研究の為に研修会などに積極的に参加し授業改善ができて、生徒の学力向上につながった。	教材研究の為に研修会などに参加し授業改善がほぼでき、生徒の学力向上が期待できる。	教材研究に努め、授業改善の見通しがついた。	新しい教材開発もせず、旧態依然とした授業であった。	2.6	B	授業経営において、過去の成功体験の上に新たな工夫を加える努力を促すキャンペーンを考案したい。	
	進路指導	個々の生徒の進路実現に向け、低学年からの系統的・持続的な進路指導計画とその実行を目指す。 1)各学年との連携を強化し、進路HRや各進路行事(進路講演会、外部講師による模擬授業など)の計画的実施を推進する。	7	各学年との密接な連携の中で、進路HR、各進路行事を系統的に継続実施し、個々の生徒の進路意識向上に大きく効果を上げた。	進路HR各進路行事を系統的に継続実施し、各学年での個々の生徒の進路意識向上に、おおむね効果を上げた。	進路HR各進路行事を実施はしたが、時に場当たりのものになり、生徒の進路意識向上にはあまり効果を上げなかった。	進路HR各進路行事に計画性がなく、その実施も不安定なものであった。生徒の進路意識向上への機会も十分与えられなかった。	3.2	B	限られた時間の中で進路HRや行事を計画的に進めてきたが、学年ごとの目標をより明確にし、3年間で1つの流れになるように1つひとつの進路行事を連携させていけるように改善を図りたい。	
		2)生徒の実態や進路希望に合わせた補習を計画し、学年進行に伴って発展的に実施できるように工夫する。	8	全学年、年間を通して各学年に必要な内容の補習がしっかり立案・実施され、生徒の進路実現に大いに役立った。	学年や時期にはややムラがあるものの、年間の中で必要な内容の補習が立案・実施され、効果も上がった。	生徒の実態に合わせた補習計画は立てられたが、内容や実施期間に不十分な点が多かった。	内容についてはあまり検討されず、例年通りの補習で終わった。	3.2	B	各学年の実状に合わせた多様な補習が開講されたが、学年(回生)によって多少の差があったようだ。計画した補習が確実に実行できるように、放課後の会議の精進が望まれる。	
		3)インターンシップの推進として、就職希望者および、保育系・看護医療系進学希望者への「一日体験」を確実に実施していく。	9	就職希望者、保育・看護医療系進学希望者へのインターンシップが全て計画的に実施され、生徒も意欲的に参加し、進路意識向上に大いに役立った。	就職希望者・保育・看護医療系進学希望者へのインターンシップが計画的に実施され、生徒の進路意識向上の1つの機会となった。	就職希望者へのインターンシップ実施が不十分で、その他のものについても生徒への啓発が不十分で、効果的に実施されなかった。	インターンシップの計画はなされたが、実施に至らなかった。	3.1	B	ほぼ計画通り実施できたが、就職希望者へのインターンシップに関しては、早期から事業所手配の準備を要することに気を付けたい。	
	図書	生徒の興味・関心・研究意識を高める蔵書を整え、読書意欲を高め、読書機会を増やす。	10	図書館利用者数、貸し出し冊数が大幅に増加した。	図書館利用者数、貸し出し冊数が増加した。	図書館利用者数、貸し出し冊数に変化がなかった。	図書館利用者数、貸し出し冊数が減少した。	2.9	B	例年通りに蔵書を整えることができたが、生徒の読書意欲を高め、読書機会を増やすために新たな企画を考えて実施すべきである。	
		コンピュータを活用した教材研究により授業効果高め、生徒の学力向上及び進路実現を図る。	11	インターネットやワープロソフト等を活用した教材の作成によりかなり効果的な授業を行うことができた。	インターネット又はワープロソフト等を活用した教材の作成はできたが、授業効果としてはまだ改善の余地がある。	インターネット又はワープロソフト等を活用した教材の作成はたまたまに行う程度であった。	インターネット又はワープロソフト等を活用した教材の作成はほとんどしなかった。	2.8	B	ICTを活用した授業方法及び教材資料に関する情報提供を従来以上に積極的に行い、かつ個々のPC操作スキルの向上も目指す。	
	研究推進	学校設定科目「科学・技術・社会」「科学英語」「科学英語情報」や理数科目の授業内容の充実	12	充実した内容で実施でき、新たな教材開発ができた。	実施により、一部で新たな教材開発ができた。	実施により、新たな教材開発がほとんどできなかった。	実施により、新たな教材開発が全くできなかった。	3.0	B	研究指定4年目となり教材開発は進んでいるが、科学英語と科学英語情報の連携などを進めていかなければならない。	
		「自然科学探究」における課題研究の充実と発表会の実施	13	1年・2年ともすべての班で課題研究の発表ができた。	2年は全部、1年は半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半以下の班で課題研究の発表ができた。	3.2	B	今年度は、昨年に続き中間発表会を実施できた。来年度も10月(中間)、2月(研究)、3月(校内)の発表会を続けたい。	
		評価アンケート集計による理数科目に対する興味・意欲の分析とアンケート結果のフィードバック	14	評価集計により、SSH事業実施による効果が十分に認められた。	SSH事業実施による効果がやや認められた。	SSH事業実施による効果あまり認められなかった。	SSH事業実施による効果がほとんど認められなかった。	3.1	B	夏と冬の全校生徒対象学力アンケート、冬の学科生徒・保護者対象アンケートによる分析を今後も継続したい。	

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	NO	評価基準				評価	取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価 自己評価の適切さ	
				4	3	2	1				
豊かな人間性を持った生徒の育成(①規律ある態度の育成②地域貢献や就業体験の充実③人権教育の充実)	1学年	1) 日常の学校生活を通じて、基本的な生活習慣の確立や公共心の育成に努める 1) 基本的な生活習慣	15	1) 基本的な生活習慣が確立し、遅刻もなく、挨拶も非常に気持ちよくできている。	1) 基本的な生活習慣がほぼ確立し、遅刻もほとんどなく、挨拶もよくできる。	1) 基本的な生活習慣が十分には確立しておらず、遅刻も目立ち、挨拶もあまりできない。	1) 基本的な生活習慣が乱れており、遅刻も大変多く、挨拶もできない。	3.0	B	規律ある態度が徐々に育成出来てきていると思われる。まだ不十分な面も見受けられるため、細かく指導していきたい。	・人生観や自分の経験などを元に話をすることは、とても良いことだ。
		2) 掃除	16	2) 公共心・美化意識が強く、指導無しでも意欲的に隅々まで掃除ができています。	2) 公共心もあり、割り当てられた分担区域等は責任を持って掃除ができています。	2) 公共心や清掃について指導を要する時とときどきある。	2) 公共心や清掃方法について常に指導が必要である。	2.8	B	公共心が徐々に育成できていると思われる。より自主的に行動できるように指導していきたい。	
	2学年	日常の学校生活を通じて、基本的な生活習慣の確立や公共心の育成に努める。	17	基本的な生活習慣が確立し、遅刻もなく、挨拶も非常に気持ちよくできている。	基本的な生活習慣がほぼ確立し、遅刻もほとんどなく、挨拶もよくできる。	基本的な生活習慣が十分には確立しておらず、遅刻も目立ち、挨拶もあまりできない。	基本的な生活習慣が乱れており、遅刻も大変多く、挨拶もできない。	3.0	B	大半の生徒が規律ある生活習慣を確立できたが、高校生活の中だるみからルーズな面が若干見られる者もいた。今後はさらにきめ細かく指導していきたい。	・授業においては、人生観や体験などが脱線した方が生徒にとっては良いことだが、実際は脱線しにくくなっている。大事なものは、バランスである。
	中堅学年としての自覚を持たせ、様々な学校行事に積極的に主体的に取り組み、集団の中で自己の役割を果たすことの出来る生徒の育成を図る。	18	すべての行事において、生徒が主体的に活動し、自己の役割を責任をもって果たした。	殆どの行事で、生徒が主体的に活動し自己の役割を果たした。	殆どの行事はこなしたが、生徒の主体的活動の場が少なかった。	行事が成り立たず、生徒の活動も乏しく、自己の役割を果たす生徒が少なかった。	3.0	B	生徒は様々な場面で主体的に行動できるようになってきた。各行事においても準備段階からも綿密に指導していけば生徒はより素晴らしい取り組みが出来ると思われる。		
	3学年	最上級学年としての自覚を持たせ、学習に対する意識を高めるために授業開始時に風紀面のチェックを行う。共に励まし合える関係をクラス内に育て、居心地の良い「場」を提供することで個人の頑張りやバックアップする。	19	学年団の意図するところを大多数の生徒がよく理解し、良い緊張感が勉強への集中を促した。クラス内で励まし合える人間関係が育ち、受験勉強の頑張りにつながった。	学年団の意図するところを大半の生徒が理解し、緊張感が勉強への良い影響を及ぼした。クラス内で励まし合える人間関係も見られた。	学年団の意図するところはあまり伝わらず、最上級学年としての自覚を高めるには至らなかった。クラス内での励まし合いもごく一部にとどまった。	学年団の意図するところは伝わらず、風紀も乱れ気味で頑張り不足、風紀も乱れ気味で頑張り不足が少し出た。励まし合う意識作りはもう少し強調して良い。	3.1	B	規律のある学習集団として終始できた。受験直前の焦りが出て、生活のリズムを崩し欠席等が少し出た。励まし合う意識作りはもう少し強調して良い。	
	総務	学習外の活動・行事「花壇整備」「防災訓練」「芸術鑑賞」「震災等追悼行事」「記念行事」・清掃活動等を計画し、他の分掌と連携の上、円滑に実行し生徒の社会性の向上を図る。	20	全ての行事や活動において計画内容もよく、他の分掌との連携も円滑に実施でき、生徒の社会性の育成に十分に寄与できた。	ほぼ全ての行事や活動において、他の分掌とも概ね円滑に連携し、生徒の社会性の育成に寄与できたと言える。	行事や活動は実施できているが、計画内容がやや不十分である。または、計画内容通りには十分実施できているとは言えない。	行事計画に不十分な点が多く、実施に於いても、他の分掌との連携が不十分で、今後内容とも十分な検討が必要である。	3.1	B	各行事については概ね円滑に実施できているが、連携を更に円滑にする必要がある。清掃を更に一層徹底できる工夫が必要。	・各種オリンピックについては評価が低かったが、結果ではなく過程が大事であるので努力や取り組みについて、もっと評価してあげても良い。
	教務	規律のある学校生活に向けて、授業時間を確保できるよう検討する。	21	来年度に向けて具体策が決定した。	具体的な方向が検討できた。	検討することができた。	現状を変えることができなかった。	2.7	B	量的な授業時間確保だけでなく、質的な授業内容向上に向けた意識改革を進めたい。	
	生徒指導	遅刻指導の徹底	22	年間通して遅刻者0の者が80%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が70%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が60%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が50%以下あった。	3.2	B	年間通じて天候で左右される。同じ生徒が遅刻し、全体に余裕を持って、交通ルールを守り登校させる。	
		地域貢献事業の充実を図る。	23	地域のためにいろんな事柄を計画し実施できた。	地域の依頼については実施できた。	地域の依頼については時々できた。	地域の依頼等については、ほとんど実施できなかった。	3.3	A	音楽部・ボランティア部・生徒会活動で実施。依頼が増加しているので精選していきたい。	
	図書	生徒会(図書委員会)との連携を密にし、生徒が主体となる委員会活動を展開する。活動の重点は文化祭、読書会、朗読会、図書館作り作成、一斉読書などとする。	24	すべての行事において、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事で、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事はこなしたが、生徒の主体的活動の場が少なかった。	行事が成り立たず、生徒の活動も乏しかった。	3.0	B	文化祭、読書会、朗読会、図書館作り作成、一斉読書等の毎年実施している行事は、概ね生徒中心に運営できたが、今後行事を精選し、生徒がもっと意欲的に参加できる新たな行事を企画することが今後の課題である。	
	保健	キャンパスカウンセラーとの連携を図り心身に健康な生徒の育成を図る。	25	カウンセリングは30回行われ、カウンセラーとの連携が図られており、十分な効果が得られている。	カウンセラーとの連携は図られているが、時間確保が不十分で生徒へのアドバイスが十分でない。	カウンセラーとの連携が不十分で、しかも十分な効果が得られていない。	教育相談体制が整っていない。	3.6	A	学年・保護者・関係機関とのより一層の連携を図り、生徒に対応していきたい。	
		生徒保健委員会活動を活性化し、保健だより等を通じて生徒の健康に対する意識を高める。	26	定期的に保健だよりを発行し、生徒の健康に対する意識を高めることができた。	定期的に保健だよりを発行しているが、生徒の健康への意識は十分高まっていない。	保健だよりを生徒が読んでいないため健康に対する意識も低い。	生徒保健委員会の活動ができていない。	3.5	A	生徒保健委員会活動の活性化を図り、生徒の健康に対する意識・知識を高めたい。	
	研究推進	海外研修や国内研修の実施	27	研修計画がすべて実施でき、研修内容も含め十分な目的を達した。生徒の進路決定の補助としての役割が十分に達成された。	研修計画がすべて実施できたが、一部研修内容に不十分な点があった。生徒の進路決定の補助としての役割が一部達成された。	研修計画が一部実施できなかった。生徒の進路決定の補助としての役割が不十分であった。	計画がほとんど実施できなかった。生徒の進路決定の補助に全くなかった。	3.4	A	今年度も、海外研修・国内研修とともに、計画通り実施できた。来年度もさらに内容の精選を行い、充実した研修としたい。	
		各種オリンピック・理数甲子園への参加	28	オリンピック・数学理科甲子園の参加で、上位入賞を果たした。	オリンピック・数学理科甲子園の参加で、一部で入賞を果たした。	オリンピック・数学理科甲子園に参加したが入賞ができなかった。	オリンピック・理数甲子園に参加できなかった。	2.4	C	オリンピック・数学理科甲子園への出場はできたが、数学理科甲子園での決勝出場はかなわなかった。	
	心の教育委員会	職員研修会と生徒向講演会の精選と充実を図る	29	職員の指導力向上と生徒の人権意識の高揚につながる的確なテーマを選択し、会の運営ができた。	職員の指導力向上と生徒の人権意識の高揚につながる会の運営ができた。	テーマの選択、講師依頼のどちらかが不適切であった。	テーマと講師の選択を誤り、あまり実のない会になった。	3.1	B	講師の人選にもっと幅広い視野と職員や生徒達の要望を考慮して実施すべきであった。講師の謝礼金をどのように工夫するかが、今後の課題である。	
	特別支援教育委員会	対象生徒の実態把握および効果的な指導と校内の支援体制を整える	30	保護者・学年との連携が図られており、対象生徒に対して十分な支援ができています。	対象生徒の実態把握はできているが、個の生徒に応じた指導が不十分である。	支援体制が十分とはいえず、適切な支援もできていない。	対象生徒の把握や校内の支援体制が整っていない。	3.3	A	保護者・関係機関との連携を図り、学年と協力して対応していきたい。	

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	NO	評価基準				評価	取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価 自己評価の適切さ	
				4	3	2	1				
地域に信頼される学校づくり (①情報発信の手段と内容の充実 ②教職員の意識の高揚 ③地域との連携)	1学年	保護者との懇談会や学年通信、学級通信などを活用し、保護者との連携を密にし、学年運営を行う。	31	常に保護者との連携を密接に図りながら、円滑に学年運営ができた。	保護者との連携を図りながら、学年運営ができた。	保護者との連携は十分できなかったが、学年運営は概ねできた。	保護者との連携が十分に行われず、学年運営にも支障を来した。	3.2	B	個別連絡も適宜行いながら、保護者との連携を密にできた。	・自転車通学について、法改正に伴い、今後指導していくことが必要である。 ・HPIは、全国区へ発信できるしお金もかからず広報できるが、プリントになると、どうしても地域に限られてしまう。もっと、他とは違うようなインパクトあるHPを作成し、充実させてほしい。 ・現代は、受験の時などHPを見る機会も多いし、実際意外と見ているが、飽きてしまう。印象に残るようなHPを作成し、活用してほしい。
	2学年	保護者との懇談会や学年通信、学級通信ホームページなどを活用し、保護者との連携を密にし、情報交換を行いながら学年運営を行う。	32	常に保護者との連携を密接に図りながら、円滑に学年運営ができた。	保護者との連携を図りながら、学年運営ができた。	保護者との連携は十分できなかったが、学年運営は概ねできた。	保護者との連携が十分に行われず、学年運営にも支障を来した。	3.2	B	情報発信は十分できたと思われる。今後はよりきめ細やかな配慮をしていけばさらに連携を密にすることが出来ると思う。	
	3学年	保護者との懇談会や学年通信・三者面談などを活用し、常に保護者との連携を図りながら学年運営を行う。	33	保護者からの要望も把握し、学年通信・保護者会・三者面談等で学校の方針をしっかりと保護者に示し、円滑に学年運営ができた。	学年通信を月に一回は発行するなど多くの保護者に情報を発信し、保護者からの意見も集めることができた。	情報発信はしているが、保護者の信頼を得られるにはいっていない。	情報発信があまりできていない。	3.2	B	学校の方針は、機会を設けて示せた。保護者や生徒の意見も面談等で聞けたと思われるが、回数的に不十分であったかもしれない。	
	総務	対外的行事・活動の案内と実施、広報出版物の適切な編集と発行を他の分掌と連携し円滑に行う。	34	行事・活動のとりまとめ、案内と実施が円滑で、広報出版物の内容もよく発行できた。	行事の案内・実施はほぼ円滑にできた、広報物の発行もほぼ満足できるものであった。	行事の案内・実施はできたが円滑とは言えず、広報物の発行に今後の改善の余地がある。	行事の案内・実施に手間取り、広報物の発行にも今後の改善の余地が大きい。	3.3	A	円滑に実施できたが、広報については、広報活動全体の方針と計画、戦略を立てて実施すべきであ。	
	教務	教職員、地域の方々へ公開授業を行う。	35	地域の方への公開ができた。	すべての職員が授業見学した。	一部の教科で実施した。	まったくできなかった。	2.6	B	研究推進部と協力し公開授業を実施した。2月実施であったが時期については検討の余地がある。	
	生徒指導	通学指導	36	周囲に配慮し、自己の安全を図り通学できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有し、クラスで温度差なく指導できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有しているが、クラスにより温度差があり指導が統一できていない。	苦情や事故に対して学年で情報を共有できていない。	2.7	B	時差登校で対応しているが、交通指導、マナー教育を徹底していきたい。また、生徒一人ひとりにも声をかけ、注意していきたい。	
		生徒会活動・部活動等の情報をホームページで発信する。	37	たえず情報を発信できた。	学期に一度は発信できた。	年に一度は発信できた。	発信できなかった。	2.8	B	試合結果については、学期一度は発信していきたい。	
	進路指導	進路情報の発信 1)進路通信の定期的・効果的な発行を持続する。	38	『進路ガイドス通信』の月1回の発行により、全学年の生徒の進路意識向上と、役立つ情報提供の一助となった。	やや不定期な発行となったが、全学年の生徒へ概ね役立つ情報を提供し、進路を考える1つの機会となった。	不定期な発行で、内容も一部学年に偏りがあるなど不十分で、生徒への情報提供としてあまり役立たなかった。	不定期な発行で内容も乏しく不適切なものも多く、生徒への情報提供としては役立たなかった。	3.3	A	進路意識の啓発と有効な情報提供の手段としての通信を心がけてきたが、さらに幅広い内容を収集して、的確な時期を逃さずに発行していきたい。	
		2)進路閲覧室のPC環境の充実により、生徒の自主的な進路情報入手の支援を推進する。	39	PC環境や書籍・資料環境を十分整え、生徒が閲覧・検索できるシステムを構築することができ、生徒の利用も増えた	PC環境や書籍・資料環境が概ね整い、生徒が閲覧・検索できるシステムを構築することができた。	PC環境や書籍・資料環境に不十分なものもあり、生徒が自主的に閲覧するシステムがまだ構築できていない。	PC環境や書籍・資料環境に不備があり、生徒の閲覧に不便をきたしている。	3.1	B	限られた予算の中で、少しずつ設備を整えつつある。資料の提供や個々の生徒への対応にも心がけ、PCだけに頼らない情報提供の支援を進めたい。	
	図書	近隣の公立図書館との交流と連携を密にし、読書指導の充実をはかる。	40	交流と連携が十分にははかられた	交流と連携がはかられた	交流と連携が不十分であった	全く交流と連携がはかられなかった	2.7	B	修学旅行の東京研修の資料を公立図書館との連携でうまく利用することができた。今後公立図書館との連携をさらに密にはかりたい。	
	保健	校内救急体制を確立し、全職員に周知徹底を図り、緊急時の対応ができる。	41	職員全員が十分周知し、対応ができる。	救急体制が確立されているが、職員の対応が十分でない。	救急体制は確立されているが、職員の周知がなされていない。	救急体制が不十分で整備の必要がある。	3.4	A	全職員が緊急時の対応ができるよう周知徹底したい	
	研究推進	SSH通信の発行とホームページによる情報発信	42	月2回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	月1回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	SSH通信の発行ができたが、月1回以下の発行であった。	SSH通信の発行ができなかった。	3.1	B	多くの校内向け・中学生向けのSSH通信が発行できた。ホームページの更新を充実させたい。	
		親子サイエンス教室において、コース生徒と地域の連携を図る。	43	サイエンス教室が実施でき、生徒の活動も十分に行うことができた。	サイエンス教室が実施でき、生徒の活動もほぼ行うことができた。	サイエンス教室が実施できたが、予定人数に達しなかった。または、一部で不備があった。	サイエンス教室が実施できなかった。	3.3	A	定員の2倍を超える応募があり、抽選で参加者を決定した。参加者の評価は、高評価であった。	
	心の教育委員会	高丘地人協、明人協、東人教、東高人教など地域の人権諸団体との連携をはかり、人権教育の充実をめざす。	44	各協議会に積極的に参加し、人権教育の充実がはかられた。	各協議会に積極的に参加できた。	各協議会には参加したが、人権教育の向上にはつながらなかった。	各協議会への参加が低調であった。	3.1	B	年間のスケジュール通りに実施出来たが、今後、今まであまり参加していない人権諸団体の研修会にも参加の機会を持ちたい。	

<総合的な学校関係者評価>
・全体的に例年より内容も充実してきており、良くなっている。研究推進など評価の低い所もあったが、問題意識があるからこそ評価が低く、また向上できるので、今後に期待している。・自然科学コースや親子サイエンスなど、北高の良い部分を前面に押し出せば良い。広報以外にも、中学校と密な連携を行い、情報交換を行うことも大切である。地域からはとても期待されている。